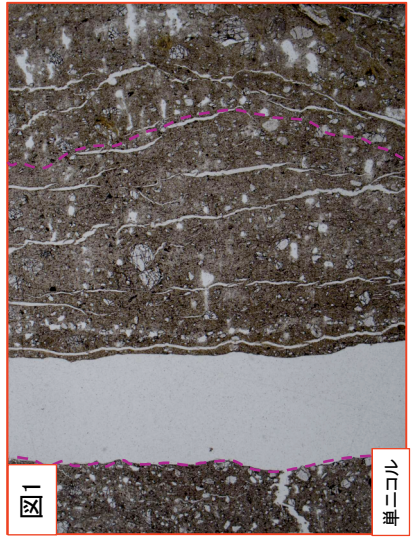
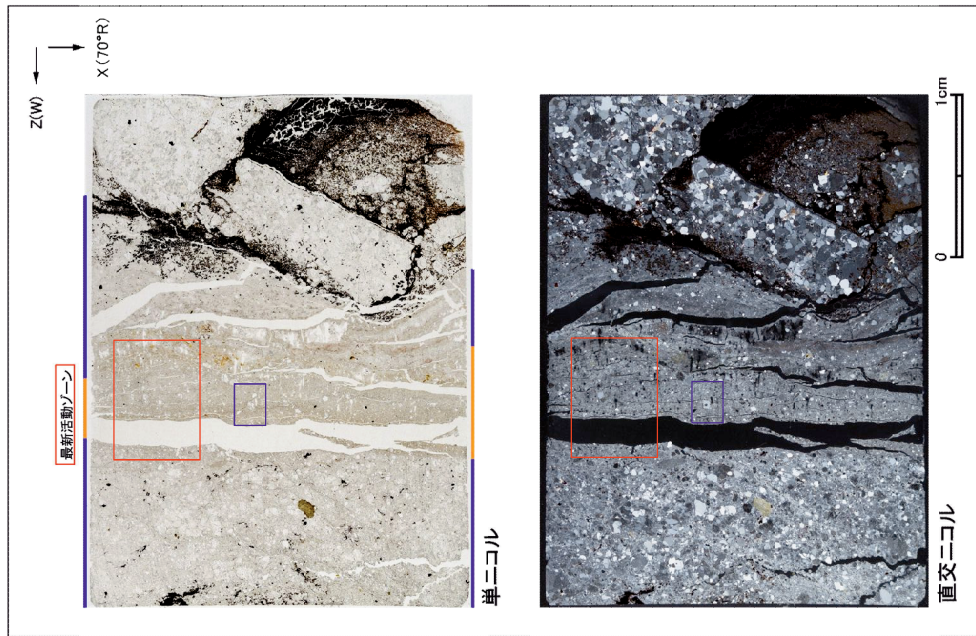
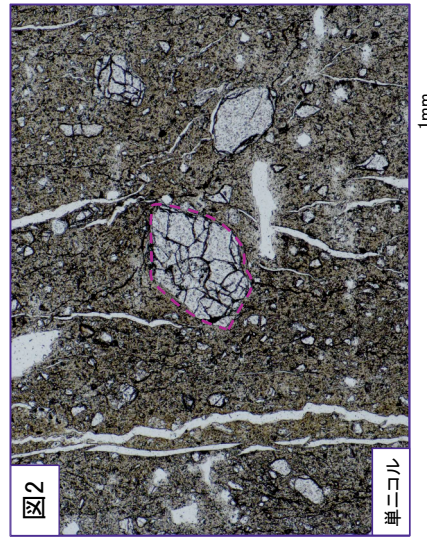


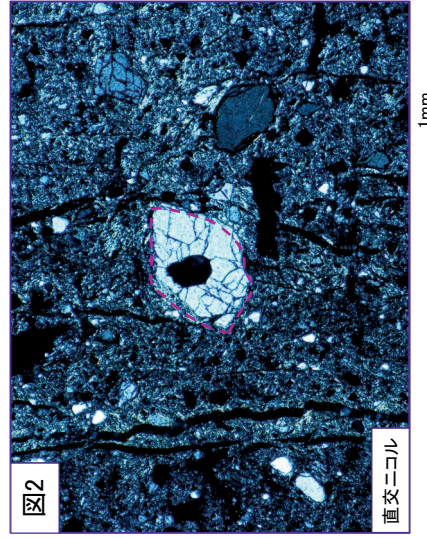
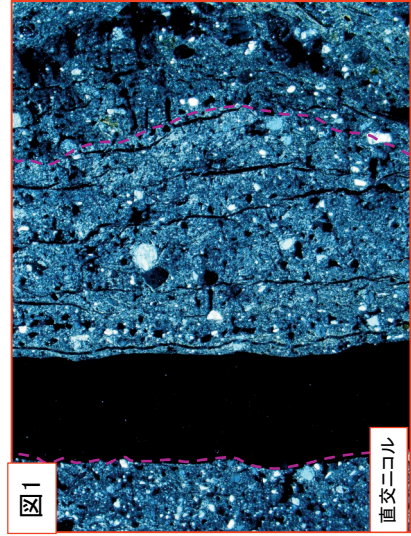
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は連続的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度27.43m)

- 深度27.43～27.44mの「灰白色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は連続的である。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、以下のカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「灰白色粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
有	0.3	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

第7.4.4.365図 (5) 破砕部性状 H31-R-2' 深度27.43～27.48m (断層岩区分の総合評価)

- ・深度39.00～39.27mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度39.27～39.52mの「砂質角礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は局部的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度39.52～39.67mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度39.67mには赤褐色粘土を挟在している。粘土は軟質で、直線的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。
- ・深度39.67～39.83mの「砂混じり角礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は局部的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 39.00～39.83m：破砕部
- 39.00～39.27m：粘土・砂質角礫状部(Hb)。灰白色を呈し、灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織は残留する。やや軟質。上端はコア端部で不明、下端53°で幅1mmの軟質な淡黄色粘土を伴う。
- 39.27～39.52m：砂質角礫状部(Hj)。下端73°で凹凸あり。明赤灰色を呈する。全体にマンガン汚染している。原岩組織は残留する。やや硬質。
- 39.52～39.67m：粘土・砂質角礫状部(Hb)。灰白色を呈し、灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織は残留する。やや軟質。下端54°で幅1mmの軟質な赤褐色粘土を伴うが、粘土は不連続である。
- 39.67～39.83m：砂混じり角礫状部(Hi)。割れ目が発達し、角礫状を呈する。原岩組織は残留する。やや硬質。下端70°。明赤灰色を呈する。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

赤褐色粘土は不連続となる

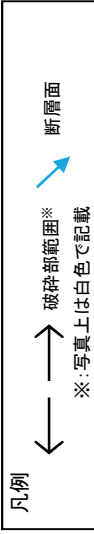


青枠部拡大

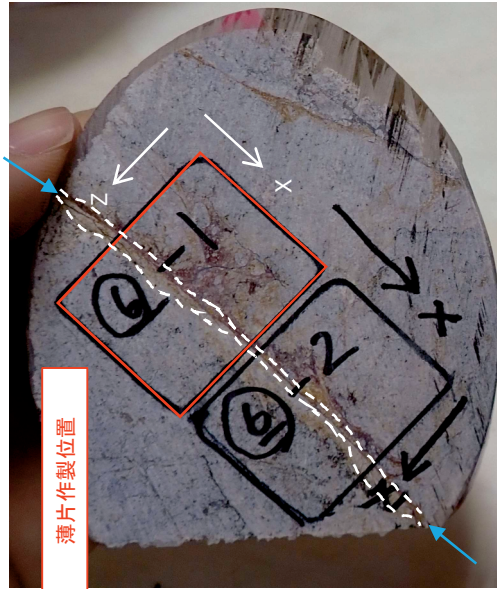
・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 β は最新活動面

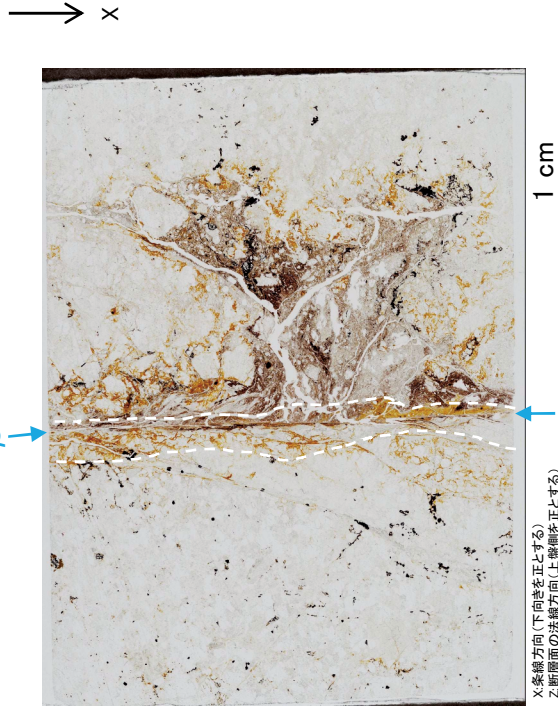


薄片作製位置写真

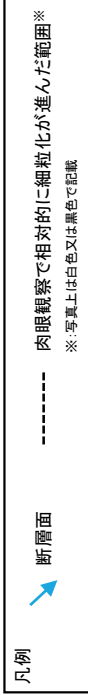


X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)

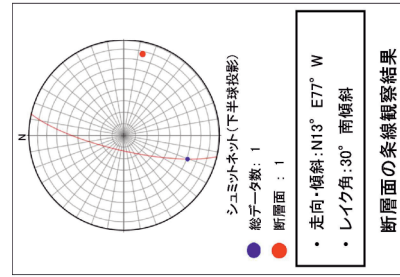


X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

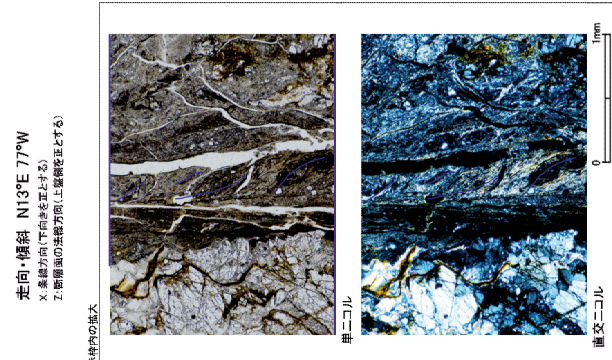
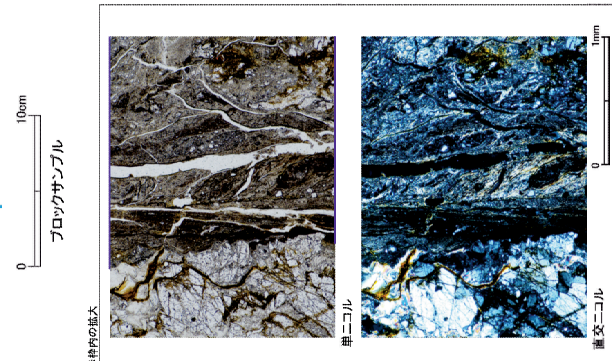
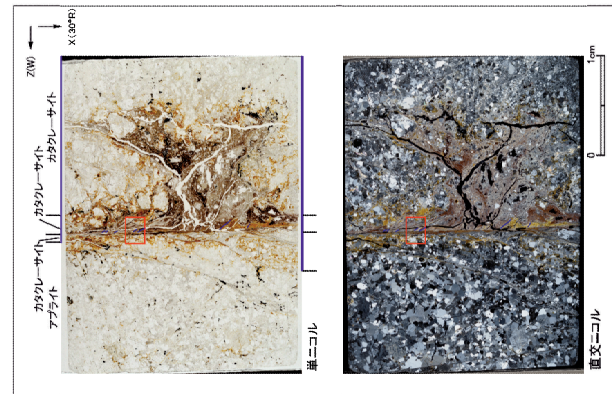
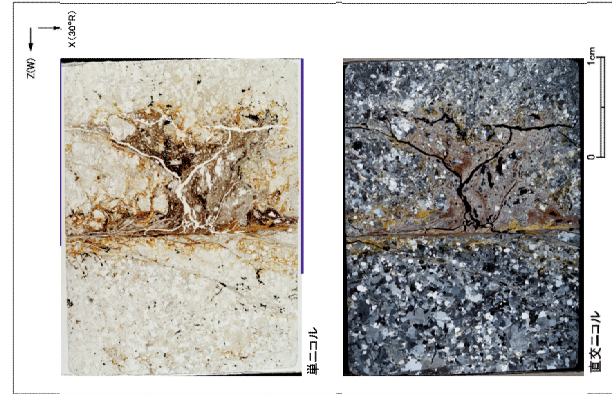
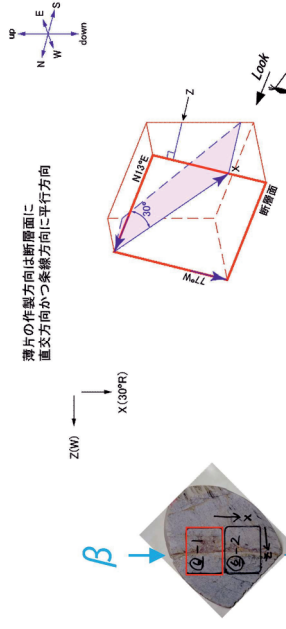


- ・H31-R-2' のボーリンググコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で、連続しない。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面 β は最新活動面



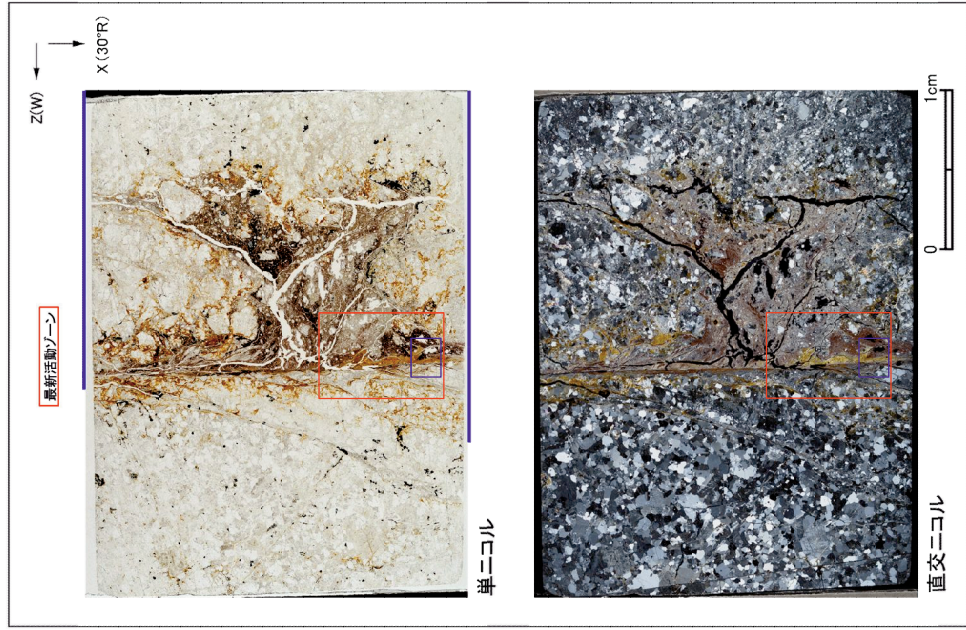
最新活動ゾーン



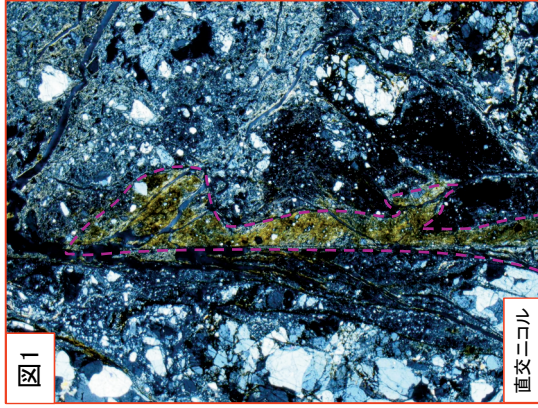
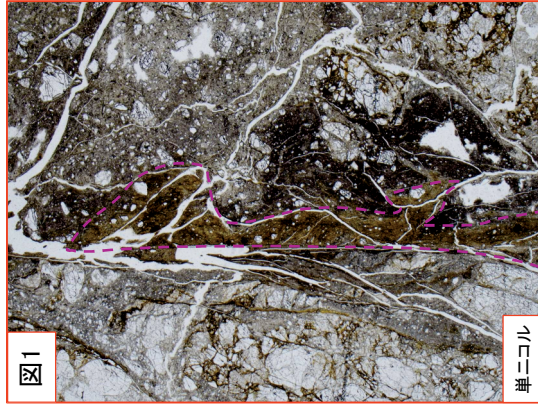
凡例	断層ガウジ
	断層角礫
	カタクレーサイト
	R1面
	P面

第7.4.4.366図 (3) 破砕部性状 H31-R-2' 深度39.00~39.83m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で、連続しない。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



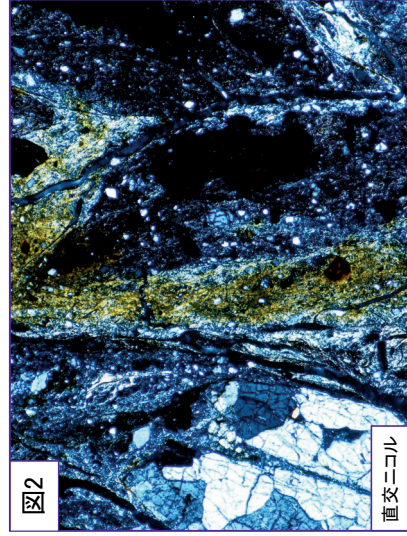
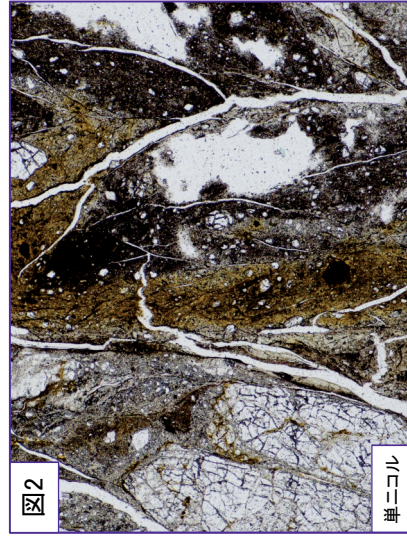
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



1 mm

1 mm

破線は粘土状部の分布範囲を示す



500 μm

500 μm

(肉眼観察結果 深度39.67m)

- 深度39.67mには赤褐色粘土を挟んでいる。粘土は軟質で、直線的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 丸みを帯びた岩片が多いが、基質を構成する粘土鉱物は少なく、断層面に沿った粘土状部の分布は局所的かつ連続しない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で、連続しない。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された赤褐色粘土は、その特徴から変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	-	-

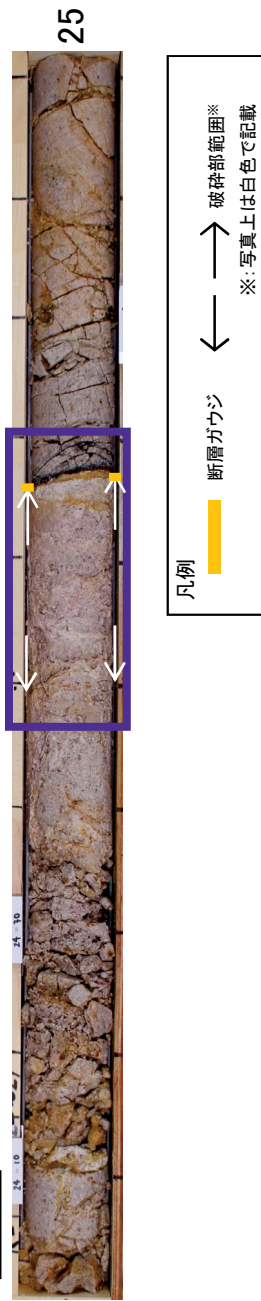
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度24.50～24.65mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、灰白色粘土が網目状に分布し、細粒部の連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度24.65～24.67mの「灰白色の砂質粘土状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度24.67mの「明黄褐色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる。岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●24.50～24.67m：破砕部
 24.50～24.65m：粘土・砂質角礫状部(Hb)。上端不明瞭、下端5°で直線的。灰白色粘土が網目状に分布するが、原岩組織は残る。やや軟質で、明褐灰色を呈する。
 24.65～24.67m：灰白色の砂質粘土状部(Hc-2)。下端10°で最も直線的。軟質。幅15～20mm。
 24.67m：明黄褐色粘土状部(Hc-1)。軟質。幅6mm。

コア写真



灰白色粘土が網目状に分布する
 細粒部は連続性・直線性に乏しい
 細粒部は連続性・直線性に富む



青砕部拡大